

2月くるみぐみだよ!

担当：久保田眞由美 小湊雅美

厳しい寒さの中にも、一日一日と春の足音が近づき、新しい季節の予感がします。子どもたちも、年度末に向けて、最後を締めくくると大切な時期を迎えています。最近では、自分でできることを少しずつですがチャレンジしています。パンツやズボンを自分ではこうしたり、脱ごうとしたり、お口拭きを自分で入れたり…もちろん全てを自分ですることは難しく援助をしています。どの子も意欲的です。

2月の行事

- ・ 3日(火) 節分・豆まき
- ・ 5日(木) くるみ組ごっこ遊び見せ合いっこ
- ・ 13日(金) くるみ組ごっこ遊び見せあいっこ
- ・ 17日(火) 発表会リハーサル
- ・ 21日(土) 発表会
- ・ 23日(月) 火災訓練
- ・ 24日(火) お楽しみ会

※3月7日(土) 親子で26年度修了式(午前中)

●今月の歌

まめまき おにのぼんつ ゆきのぺんきやさん うれしいひなまつり

●今月のわらべうた

うまはとしとし トーキョート ちゅっちゅこっことまれ
かくかくかくれんぼ ととけっこー ももやももや

●今月の絵本

わんわんなくのはだあれ たまごのあかちゃん
ありのあちち おくちはどーこ おいしいなうれしいな

1月の様子

◇運動



戸外へ出るには寒い季節ですが、子どもたちは元気いっぱい。室内でも十分体が動かせるように心がけてすごしています。木製遊具や斜面板、ダンボール、牛乳パックで作った箱等を使いながら、登ったり、滑ったり、くぐったり、時には小さい段差をジャンプしたりしながら、身体を動かして楽しんでいます。ボールあそびも大好きな遊びの1つです。保育士も一緒になって、投げたり蹴ったりすると、同じ動きを真似してみたり、転がるボールを拾いに行ったり、子どもたちの笑い声や笑

顔が広がっています。

●冬を感じる



冬本番で、部屋の中と外の気温の差も大きくなりがちです。それほど強くない風でも、空気が冷たいので少し窓を開けただけで、からだはキュッと引き締まります。部屋の遊びが中心になる冬ですが、体調のいいときや少し暖かい日には、ジャンパーを着込んで戸外へ出かける時間も作ります。お庭の陽だまりで、スコップを片手に砂を掘り起こしたり、広場でビニール袋で作った凧をもってかけっこをしたり。戸外あそびはくるみ組さんにとっても身体も心も解放できるひと時です。部屋に帰ってくると、今までの冷たさ、寒さとの違いに子どもたちも、「アレ? なんかちがうな」と感じるようです。「あったかいね〜」「外は寒かったね〜」という保育士の言葉掛けに、子どもたちは“冬”という季節を感じているようでした。

◇集団



だんだん自己主張が出始めてきた子どもたち。お友だちと同じことをしてみたい、同じおもちゃで遊びたいという思いから、玩具の取り合いも増えてきました。遊んでいて、せっかく手にしていたものを誰かに取られると、泣いて訴えたり、怒って相手をつかんだり、物を取り返そうと奪い合うようになります。友だちが持っている物を取ってしまった子どもには、「〇〇ちゃん、これ欲しかったの?」と行為の意味を言葉にしてから、「△ちゃん、取られて泣いてるよ」と相手の様子を伝え、取られた子の気持ちを慰めることによって、お互いの存在を意識できるようにします。まだ、自分の物と他人の物の区別は難しい時期の子どもたち。奪い合いは、自分と他人の認識を促す好機です。「お友だちのことが気になる、同じことをしてみたい、これはぼくの!」と子どもたちの気持ちや、それぞれが主張できることも大切にしながら、大人の対応を考え過ごしていきたいと思います。

◇言語・認識

～お返事「はい」～



毎朝、朝の会でお名前呼びをしています。7ヵ月になるとあ君も、お顔を見て名前を呼ぶと、ニッコリ笑顔で答えてくれるようになります。進級を迎える子どもたちは、自分の名前が分かり始め、名

前が呼ばれると、嬉しそうに「はい」と手をあげたり、笑ったりして返事を返しています。中には、友だちが名前を呼ばれた時も、手を挙げて保育士を見つめる姿もあります。手を挙げたら先生にうんと褒めてもらえるので、ついつい何度も手を挙げてしまうのでしょうか。しかし、それもほんのわずかの間です。自分の名前を大切に思うようになり、自分の名前が“いつ呼ばれるかな”と心を高めて待ち、呼ばれると力強く手を挙げてくれるようになります。お休みのお友だちの名前を呼ぶと“あれ?いない”と言う表情で友だちの顔見くらべるようになります。自分だけではなく友だちにも名前があることが、分かりはじめています。

◇描画



1歳3か月～5か月頃、なぐりがきは「弧状の往復線」に至ります。横(左右)や、ななめの反復した運動の軌跡です。これは、単に描くあそびだけではなく、立ち上がる、歩きはじめる、指さすなど、「～だ」と、「一の文字」を描くように世界を切り開いていくこの時期に共通の姿なのです。こうり

よう君も要求もうんと出せるようになり、足腰もたくましくなって、力強い往復線を描くようになりました。

◇絵本



1月は、『わんわんなくのはだあれ』の絵本を読みかかせしてきました。いろんな動物の鳴き声から当てっこする絵本です。「〇〇なくのはだあれ?」の語りかけが繰り返され、ページがめくられるたびに子ども

たちの、声や笑顔があふれます。また、リズムカルな文章なので、聞いている方も心地よいと感じます。読んでいくうちに子どもたちも、「にゃお」「ブーブー」「モォー」と次に出てくる動物が分かるようになって、期待をよせてページがめくられるのを楽しんでいます。この絵本に出てくる動物のお面を作って、動物さんと真似っこ遊びや待て待て遊びかくれんぼ…、と遊びが広がっています。

●発表会におきて、楽しんでいます!



発表会で、普段の子どもたちの姿を見てもらえるように、ホールで発表会ごっこをして、お兄さんお姉さんたちや先生たちに見てもらっています。初めは、いつもと違う環境に、動きが止まったり、笑顔が出にくかった子どもたちでしたが、回数を重ね、

ホールで遊び、慣れていくうちに、言葉や笑顔が出る様になってきました。初めての保育園生活の中で、泣いて登園していた子どもたちでしたが、友だちや保育士との関係の中で、大きく成長しています。毎週の見せあいっこでは、犬さんと待て待て遊びをしたり、ぶたさんとにらめっこをしたり、かえるさんのまねっこをしてジャンプをしたり、毎回違う遊びで子どもたちと楽しんでます。当日は、どんな遊びの姿が見られるのでしょうか。子どもたちのありのままの姿を見て頂けたらと思っています。

◇手指・探索



今月はスタンプあそびをしました。1歳をすぎて握る、つまむなど手指が器用につかえるようになり、スタンプ押しも楽しいあそびです。ダンボール紙を丸めて筒状にしてスタンプ台にトントンとして紙に押ししていくとおもしろい模様が出来、子どもたちも「あっ、」と顔をよせて見つめては、またトントン。だんだん面白くなって紙いっぱいストンプを押して楽しんでいました。一人一人順番でしていると、次々「なにしてるの？」と集まってきて、後ではみんなで輪になって遊びました。子ども同士見合いながらあそぶと、“こうしたらいいんだ”と分かり、で子どもたちだけでも、トントンと楽しめていました。出来上がったものは、保育士と一緒にシール貼りもして、セーターやマフラー、帽子の形にして、壁面にかざりました。あったかかわいい冬の飾りが出来ました。

～両手が使えるよ！～



お座りの姿勢がしっかり安定してきたとあ君。坐位を獲得するとこれまでとは違って、両手が自由になり、手を使った活動が飛躍的に広がっていきます。目の前にさがっている物を引っ張ってみよう。前にある玩具を取ってみよう。“動いた！音が鳴った！ぼくが鳴らしているんだ。ぼくってすごい！嬉しい！”きっとこんな発見を楽しみながら過ごしているのでしょう。次第に小さい物をつかむようにもなり、指先の自由も高まっていきます。この時期の子どもたちにとって、両手を使うことはとても意味があります。まだ利き手が決まる時期ではありません。両手がほぼ同じ水準で使えることを大切にしながら、持ち変えやすいおもちゃや、両手をもって叩き合わせてあそべるようなおもちゃを工夫していきたいと思えます。

◇生活 ●身辺自立

歩行がしっかりしてきた子どもは、保育士の膝に座らせてパンツやズボンをはかせていきます。自分でズボンなどをはきたい素振りが見え始めたら低いイスを用意し（イスに座ることで、足が通しやすくなります）、足を通す、前を引き上げるなどの方法を知らせ、自分で出来た実感を積み重ねていくようにしています。「お手手でもって、ヨイショ！」と声を掛けながら、取り組んでいくうちに、自分から“よいしょ”と引っ張れるようになってきます。お家で挑戦する姿が見られたら、椅子を出したり、お母さんのおひざを使ったりしてやってみて下さい。

●食事



とあ君の離乳食の量も増え、給食の時間は6人そろって賑やかに食べています。こはるさん、はる君は、スプーンの使い方も上手になり、ほぼ自分の力で食事が出来るようになりました。月齢などで個人差が大きいくるみ組さんですが、みんなで「おいしいね」「お皿ピカピカに食べられたね」「スプーン上手にもって食べれるね」等話しながら食べることで、お互い意識しあいながら、自分からスプーンを意識して握って食べたり、苦手な食材も“食べてみよう”と口にはこんだり出来ていくんだと思います。「今日のご飯もおいしかったね」「ごちそうさまでした」と手を合わせている食事の時間です。

～七草に触ってみました～



年始め、一年の無病息災と招福を願い 昔から1月7日に七草粥を頂く習慣があります。保育園でも七草料理の日があり、くるみ組の子どもたちもこの七草に触れました！食材に触れるのは子どもたちの楽しみでもあります。目の前にならべると、少しびっくりしたり、一つ一つ葉に触れて、「これは何かな？」とちぎろうとしたり「葉っぱがいっぱいあるけど…」「食べられるのかな…」と口に入れそうになったり、様々な反応があります。この日触れた食材は、昼食の一品として七草汁に変身。これからも元気で心も体もおおきくなあれ！という気持ちで子どもたちと一緒に食べました！今は、朝触った七草がこのお汁になったというつながりを理解することは出来ませんが、大きくなって毎年保育園で七草に触れ、食べたな…と思いだしてくれたらいいなと思います。